



ボランティア通信 2018.4 Vol.216

# ななかま

発行 交野市ボランティアグループ連絡会  
 (交野市ボランティアセンター内)  
 V連絡会 E-mail vltr94@leto.eonet.ne.jp  
 Vセンター E-mail katabora1994@katano-shakyo.com

ボランティアを  
 紹介してほしい人  
 ボランティア活動を  
 はじめたい人  
 ボランティアセンター  
 にお問い合わせください  
 (☎894-3737)

## 2018・19年度ボラ連新役員が決まる

役職	氏名	所属グループ
会長	川下 武士 (再)	虹の会
副会長	菊田 広子 (再)	あい・かざぐるま
	森本 昌子 (再)	ほほえみ
書記	宮田 友理 (新)	さつき
会計	梶 記代美 (新)	星の会・さつき
会計監査	和久田 綾子 (再)	さつき
顧問	栗原 清美子 (再)	ほほえみ・かざぐるま 糸ぐるま

2018・19年度のボランティアグループ連絡会の役員選出について、昨年12月から指名委員会での検討が始まり、今年1月の応募を経て、本格的な人選に入りました。そして3月27日のリーダー会議で左記のメンバーを諮問し、満場一致で承認されました。  
 任期は今年4月から再来年3月までの2年間です。

### ボラ連の発展にむけて

ボランティア活動を取りまく環境は難問が山積していますが、連絡会に集うボランティアの皆さんと気持ち合わせながら、ボラ連の諸活動の活性化、そして各グループ活動の発展に努めてまいります。

これからもボランティアの皆さんの変わらぬご理解とご協力をお願い致します。

2018年4月

ボランティアグループ

連絡会役員一同



前列左から 栗原顧問、川下会長、菊田副会長、森本副会長  
 後列左から 和久田会計監査、梶会計、宮田書記



ボランティアグループの活動から身を引き、家事と趣味に専念することにしました。

### 心の支えは故吉田芳子先生の教え

ボランティア活動を始めて30年余り、よく続いたものである。何も言わずに見守ってくれた家族への感謝、そして活動を支えてくれた故吉田芳子先生の教えを思い出さずにはいられません。平成8年4月から毎月のリーダー会の後に行なわれた12回の講座で、ボランティアの「いろは」を学んだことが大きな自信に繋がりました。自主性、社会性、無償性という原則は今でも私の支えです。

### 出発点になった「ひまわり」

平成4年5月、保健福祉総合センター(ゆうゆうセンター)の開所に合わせて健康増進課主導で「ゆうゆう機能訓練教室・ひまわり」が開設され、理学療法士のお手伝いをしながら、利用者さんとの交流を深め、いろんな作品作りに没頭しました。なかでも共同作業で畳半畳の大きさに、和紙を染めて「星のブランコ」のちぎり絵を半年がかりで製作したところ、その作品が新潟県で展示されることになり、利用

## ボランティア活動に感謝

前会長 吉田朋子

者の方を車いすに乗せて栗原さんと交代で会場まで行ったことなど貴重な体験が甦ってきます。

### バリアフリーを求めて

また車いすで交野市内をどのくらい回れるのか、メジャー片手に市内全域を手分けして、道路事情をはじめ公共施設、福祉施設などを調査、汗だくになりながら一冊のマップを作り上げ、行政や関係者に配布したことも昨日の出来事のような気がします。

### 楽しい仲間と共に

「ひまわり」のリーダーを皮切りに連絡会の役員を15年(内、会長8年)も続けられたことや、他のグループの活動にも参加し、多くの友だちができたのは望外の喜びでした。また地域では岩船小学校区福祉委員会委員長など、まさにフル活動の日々でしたが、辛さより楽しさいっぱいでした。「道のないところ、皆さんと歩いて道にした」と、故吉田先生の言葉を思い出しながら、わたしを支えて頂いたボランティアの皆さん、家族に感謝、感謝です。終わりにボランティアグループの益々の発展を心から願っています。

リーダー会議(3月27日)

### ☆会長挨拶

・年度末を迎えて(省略)

### ☆連絡会より

・新年度連絡会役員・顧問の承認(1頁参照)  
 ・新年度各グループリーダー及びサブリーダーの紹介(2頁参照)

・連絡会退会の承認「花と緑の会・いぶき」(2頁参照)  
 ・吉田顧問記念品贈呈の件

・30年度二大行事の日程と実行委員会構成について(2頁参照)

・市民交流フェスタ 8月4日(土)開催  
 健康福祉フェスティバル 11月11日(日)開催

・29年度活動助成金決算について 4月13日までに提出

☆センターより  
 ・グループ活動記録について  
 ・平成30年度ボランティアグループメンバーの活動確認について

・平成30年度センター利用申請書について  
 ・センター給湯室(1・2階)の利用について

☆各グループ報告(省略)



引越し 難民現象

新年度を控え、希望の日に転居できない「引越し難民」問題が深刻化しているとのテレビ報道に驚きを感じた。

就職や転勤、入学と新たな生活が始まる春は、人が動く季節で、3月下旬から4月上旬には年間引越し件数の3分の1が集中するという。一方、引越し業界では運転手不足が深刻化しているのに、運転手の宅配業界への転職が進み、人手不足に拍車をかけている。

ネット通販の配達は増え、宅配業界の運転手需要はさらに高まるとみられている。居ながらにして買物ができるのを当然と思う消費者の感覚が「引越し難民」を生み出す背景にあると・・・

特定の時期に一斉に動くことで効率性を追求するあまり、そこから生まれるデメリットが社会全体の重荷になっていくらしい。解決には難しい問題が横たわっているが、過度な需要の集中を改める機会になればと思う。個人ができることに限界はあるが一度考えてみてはどうだろう。(竹トンボ)

# 平成30年度グループリーダー・サブリーダーが決定

平成30年度の各グループリーダー・サブリーダーについて、3月のリーダー会議で左表のとおり各グループから報告を受けました。各リーダー・サブリーダーの任期は1年です。

グループ名	リーダー	サブリーダー
在宅訪問「陽だまり」	馬場 巡	磯仁 千枝子
外出介助「かざぐるま」	栗原 清美子	黒田 直美
子育て広場「アリス」	沖田 麻知子	和久田 純子
手話「さつき」	斉藤 三千子	高橋 博子
要約筆記「星の会」	坂口 和代	新里 幸子
点訳「虹の会」	山宮 加代子	清水 和美 前田 順子
朗読グループ「あい」	山本 綾子	神原 洋子 久田 美佐子
障がい者との交流「ほほえみ」	荒木 幸代	松田 ひとみ
障がい者・施設支援「ふれんズ」	山本 むつ美	佃 静枝 庄田 竜子
介護衣料手作り「糸ぐるま」	林 志都江	間瀬 よし江 小西 敦子
いきいき歌体操「HAND」	奥田 孝子	平松 幸男
車いすダンス「ひまわり」	佐藤 建造	西崎 二三江 大木 孝子
おもちゃ作りとニュースポーツ・演芸「玉手箱」	岡崎 佳世子	作本 儀蔵

**花と緑の会 「いぶき」が退会**

「いぶき」が会員の高齢化や減少で13年間の活動に終止符を打たれることになりました。5月に会の解散が行なわれます。

連絡会には平成26年5月に入会をいただき、4年間のお付き合いでございました。植木市などで大変頑張っていたいただき誠に残念ですが、リーダー会で「いぶき」の退会を承認しました。

## 平成30年度年度二大行事 実行委員会構成について

ボランティアアグループ連絡会のイベントについて、平成30年度は、市民交流フェスタ(8月4日(土)開催)と交野市健康福祉フェスティバル・ふれあい広場(11月11日(日)開催)への参加を実施します。このイベントの企画・推進にあたる実行委員会を構成し、実施に向けて具体的な検討を始めます。二つの実行委員会の構成は次のグループから委員を選出させていただきます。

- ◎市民交流フェスタ  
陽だまり・あい・虹の会・糸ぐるま・HAND・ひまわり・玉手箱の7グループから選出
  - ◎交野市健康福祉フェスティバル・ふれあい広場  
かざぐるま・アリス・さつき・星の会・ほほえみ・ふれんズの6グループから選出
- 実行委員の選出は4月24日(火)までにVセンターに届け出てください。市民交流フェスタについては開催までに時間的に余裕がありませんので、5月上旬に第1回の実行委員会を開催します。

## 引きこもり、親の気持ちと子の気持ち

ある雑誌に「子どもの引きこもり」について、カウンセラーの意見が紹介されていた。引きこもりは、ある日突然起こるのではなく、幼い頃からじわじわと生きているエネルギーが低下していく、ストレスに耐えられなくなると、自身を守るため家に引きこもるといふ。「生きているエネルギー」を低下させる最大の要因が、親の「ねばならない」という強い思い込み、強迫観念だといふ。真面目に一生懸命、生きてきた親御さんほどその傾向が強く、子どもにもよかれと思って押しつけてしまう。

そんな親に育てられると、子どもは常に追い立てられ、評価され、干渉されて育つため、次第に神経が疲弊するといわれる。子どもの生きているエネルギーを回復させるには、親の価値観を根底から変える必要がある。何でも義務感と強迫観念からやっていて「喜び」を実感できなくしているのではないかと指摘など考えさせられる。

ひきこもっている子を元気にしたいなら、親が価値観を変え、喜びや思いやりを優先し、親が変わってこそ、子どもが変わるという記事を目にして、「親のきもち、子のきもち」のすれ違いを痛感しました。(N子)



## 運転手さんの機転

3月22日、朝のゆうゆうバスの運転手さんの対応を伝えたい。倉治踏切の信号が故障で赤になつていてため遮断機が上がらない。車の列が長くなる。次の車でバスを待っている人がいると判断した運転手さんはバスの向きを変えて開いている一つ向こうの踏切を渡り迂回して倉治7丁目のバス停に、遅れは5分。各人が乗り込むたび運転手さんは「信号機の故障で遮断機が上がります」とお見事でした。(M)

## 片方の手袋

作家の向田邦子さんがお気に入りの手袋の片方をなくし、偶然同じ手袋の片方だけを拾われ、届け出たものの持ち主が現われず、譲り受け喜んだが、それは残しておいたのと同じ左手用だった・・・とのエッセイを紹介



## みんなの広場

した新聞記事を読み、な何と、私は失くした手袋、片方ずつ、左は紫、右は黒を当然とばかり使用しています。勿論、お出かけ用は別物で、車の中ですが、最近ハメ換えるのが面倒で、そのまま車外でも愛用しています。

先日、朝のウォーキング時にお会いする方の手を温めていたのも色違いの手袋で「ヨッ! ご同類」と嬉しくなりました。(F嬢)

## 「梅干しばあさん」って 最初に言ったのは清少納言

顔がシワだらけの老女のことを、「梅干しばあさん」といふ。酸っぱい梅を食べたときのように、老女の顔がシワシワであることを皮肉っているわけだ。では、最初に梅干しばあさんを結びつけたのは誰だったのか?

正解は、「枕草子」で有名な清少納言。彼女は「歯もないような老女が、梅を食べて酸っぱそうにしている顔が嫌だ」と「枕草子」に記しているのだ。女性をおちょくったこの「梅干しばあさん」という表現の生みの親は、男性でなく、同性である女性だったというわけだ。(雑学記者)